

## ■西海岸開発に係る浦添市素案の推進について

最初に、那覇港長期構想策定における浦添ふ頭に関する浦添市素案策定に至った背景についてご説明申し上げます。

本市西海岸海域については、第二次浦添市総合計画においてマリントピア構想としてその開発の具体化が示され、さらに、平成 32 年度を目標年度とする現在の第四次浦添市総合計画においても、西海岸一帯については浦添市のまちづくりリーディングプランの一つとして「海を活かした文化と活力ある新たな都市の形成」をコンセプトにまちづくりを行うことが示されるなど、早期の事業実施が期待されております。

一方、キャンプキンザーについては平成 25 年 4 月の統合計画において、返還時期が 2025 年度又はそれ以降として示されるなど、キャンプキンザーと西海岸海域の一体的な利用計画・開発に向けた、早期の対応が求められる時期に来ているものと認識をしているところであります。

こうしたキャンプキンザーの返還を巡る環境の変化を受け、西海岸開発のあり方については、昨年 8 月より市民ワークショップや市民討論会、市民アンケート調査結果を基に、学識経験者や有識者等で構成する「那覇港浦添ふ頭地区長期整備構想検討委員会」を立ち上げ、現在、作業が進められている那覇港長期構想に反映するべく「浦添市素案」を策定したところであります。 ※スライド 1 をご参照下さい

浦添市素案策定の基本的な考え方といたしましては、これまで”物流”中心の西海岸開発のあり方から”人流”中心の開発へと移行することで、背後

に広がるキャンプキンザーとの一体的開発による観光客 1 千万人を目指した、“国際的リゾート地”としての一翼を担うことが期待されてきます。

今後は、地の利を生かした経済振興による就業と雇用の場が確保され、本市の持続的発展を確実なものにしながら、本市のみならず県経済の牽引役となるよう取り組んで参りたいと考えております。

**次に、浦添市素案の主な内容についてご説明申し上げます。**

現計画と浦添市素案の違いについては、まず一点目が、ビーチの向きを北向きから西向きに変更したこと。二点目は、マリーナの位置を水深の深い箇所で開催したこと。などにより、浦添市素案は環境影響評価方法書で指摘された知事意見に配慮した内容となっております。

三点目は、第二ステージ(35.5ha)と第三ステージ(102.8ha)、軍港埋め立て(49.0ha)を合わせた埋め立て面積 187.3ha が浦添市素案では 164.3ha となり、23ha 縮小した案となっております。

※スライド 2 をご参照下さい

**次に、浦添市素案と軍港建設位置変更の関係についてご説明申し上げます。**

浦添市素案の具現化にあたっては、軍港建設位置変更は大切な要件になってきます。そのことは、SACO 合意に基づき浦添ふ頭内のいずれの場所に変更するのか。と言うことであり、その結果は、西海岸海域とキャンプキンザーとの一体的開発のあり方を大きく左右することになって参ります。

よって、キャンプキンザーを含む西海岸一帯に期待される開発利益の最大化を図り、浦添市素案の早期具現化に取り組むためにも軍港の建設位置変更については、第三ステージを含む海域とすることが望ましく、結果と

して、環境への負荷をできるだけ小さくすることで、自然保護と経済振興のバランスとられた発展に寄与することができると考えております。

※スライド3をご参照下さい

次に、軍港移設問題とその建設位置変更に関する基本的な考え方について申し上げます。

私は、浦添市素案の具現化に向け、新たな軍港建設位置を浦添ふ頭内の第三ステージを含む海域とすることについては、軍港移設を巡る日米合同委員会での経緯や行政の継続性、何よりも今後の行政運営に支障が出ることは回避する必要があると考えて参りました。

まず、軍港移設については、平成13年11月に浦添市長が浦添ふ頭への受け入れを表明し、平成19年には政府、沖縄県、那覇市、浦添市による「那覇港湾施設移設に関する協議会」で建設する代替施設の形状が確定され、現在、港湾計画図に明示されていること。

二点目に、浦添市素案の提案が遅れた場合、今年8月の那覇港長期構想策定及び、11月の那覇港湾計画改定に向けた作業に大きな影響・支障が出てくること。

三点目に、2025年度又はそれ以降とし、キャンプキンザー返還の可能性が具体的に示されたことから、国際的リゾート地の実現に向けた具体的取り組み等、時期を失することなく速やかな対応が求められていること。

こうした背景を踏まえ、今、この時期に軍港建設位置をSACO合意に基づき第三ステージを含む海域とすることで、浦添市素案実現に向けた浦添

ふ頭内整備の方向性を明確に示すことになり、もって、市益の最大化を図ると共に、本市の持続的発展につながるものとの思いを強くしているところであります。

本市は、軍港を受け入れる一方、キャンプキンザーを送り出す側に立つなど厳しい立場にあるものの、均衡ある市域の発展を担保していくためには、SACO 合意及び統合計画を着実に進め、沖縄の基地負担の軽減を図っていくには、大きな政治的かつ政策的な決断が求められていると思っております。

私も「基地のない沖縄でありたい」との思いは強く、そのことは、これまでもそうであったように、確固たる信念として、これからも持ち続けなければならないものと思っております。

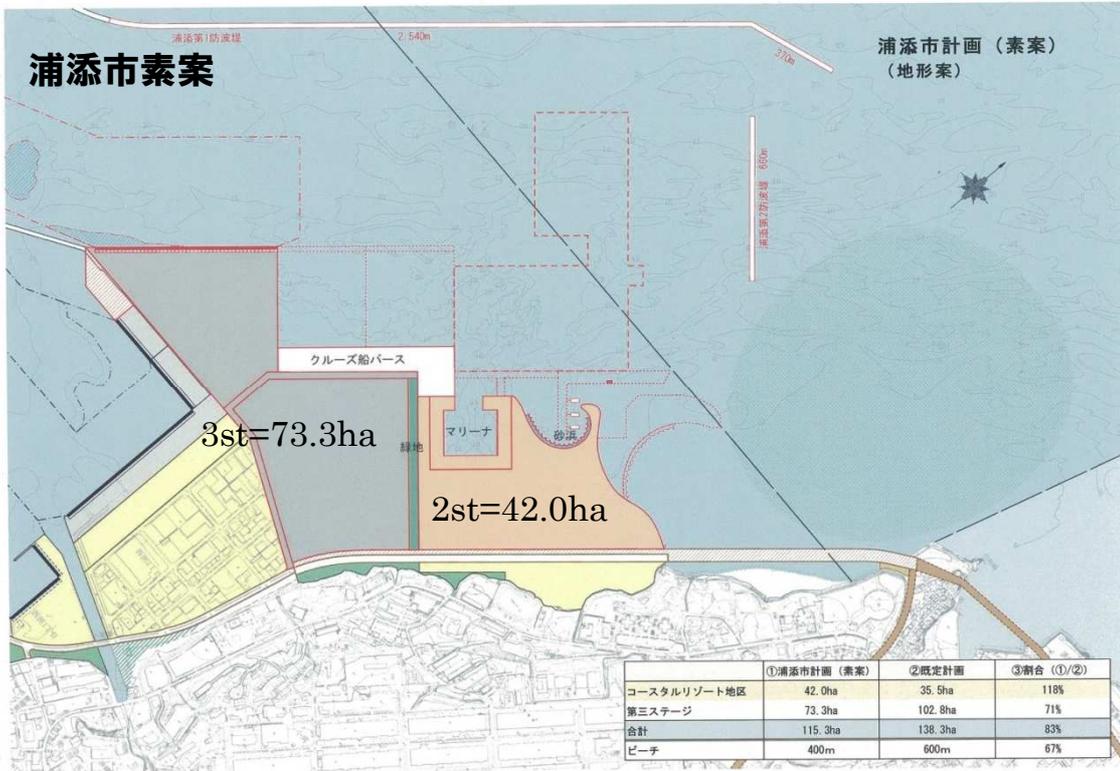
そうした自身の良心上の思いはあるものの、第三ステージを含む海域に軍港建設位置を変更することについては、市域の均衡ある発展による市益の最大化を図る事になると考え、受忍すべきとの決断を致しました。

以上、浦添市素案の概要と、その具現化に向け取り取り組んで行く上で、支障となる軍港建設位置の変更についてご説明申し上げます。

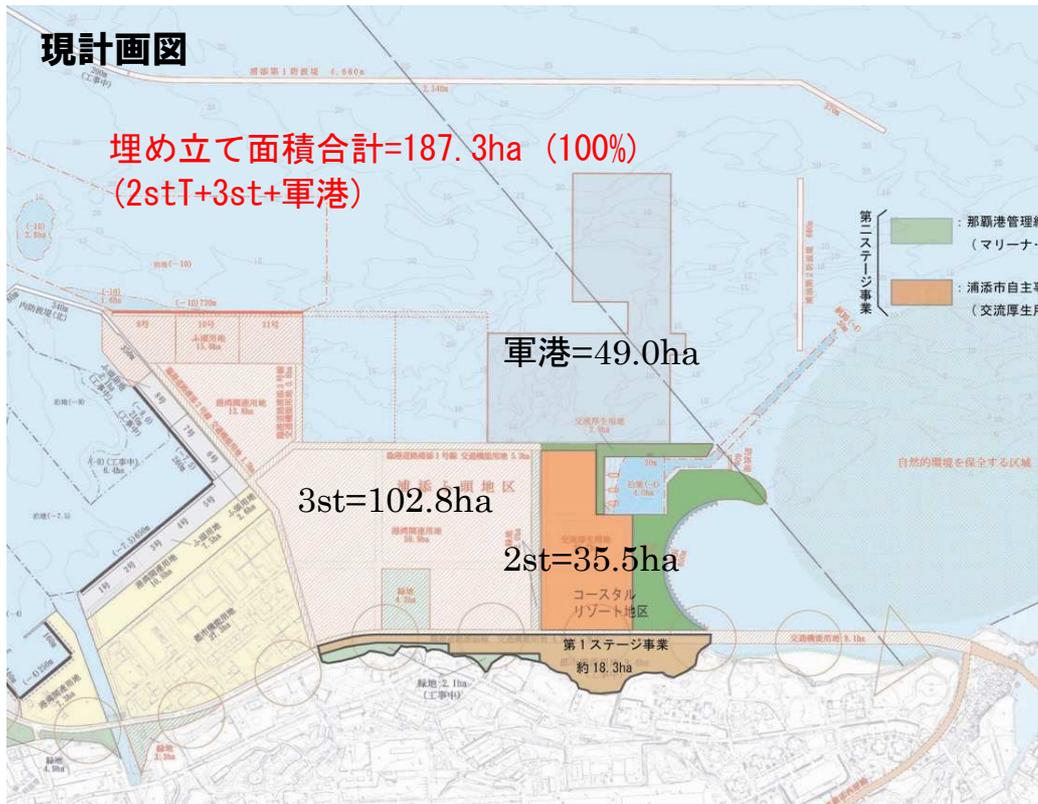
このプロジェクトが円滑に推進できるよう、市民は基より関係機関各位のご理解とご協力を頂けますようお願い申し上げます。

平成 27 年 4 月 20 日 浦添市長 松本 哲治

# スライド 1



## スライド 2



## スライド 3

